

## 課題

- 児童の本に対する興味や読書に対する意欲に個人差がある。
- 教職員の学校図書館機能の計画的な活用や学校司書と協働での授業づくりが行えていない。
- 児童が自ら見つけた課題解決に向けて図書資料等を活用して自分で考える学習活動が行えていない。

## 事業のねらい

- 読書習慣の形成に向けた取組を進めると共に「行ってみたいくなる図書館」を目指し読書センターとしての図書館経営の見直しを行う。
- 学校図書館活用年間計画を作成し、学期始めに学校司書と相談・連携を行う。
- 児童が課題を設定し図書資料等を活用しながら解決に向けて学習を行う授業改善に取り組む。

## 取組実施地域・学校の指定

滋賀県東近江市立八日市北小学校



## 実施内容

### ①学年単位での読書意欲向上への取組



学年ごとに冊数を意識して図書館利用ができるよう、学年ごとに貸出冊数の年間目標と達成冊数を掲示した。

### ②「行ってみたいくなる図書室経営」



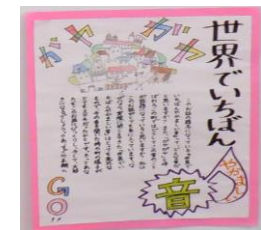
季節ごとに工夫した配架や高い書架の高さを下げて明るく見やすくするなど、学校司書の力を借りて経営の見直しを行った。

### ③学校司書と協働での授業づくり



付けたい力を学校司書と共有し、選書や資料収集を行ったり、単元の導入で物語の作者の著書についてのブックトークを行ったりした。

### ④児童が主体の課題解決学習



始めに単元のゴール(読書ポスター)を提示し、児童自らが課題を設定して、他の児童の意見を参考にしながら自身の課題を解決する学習に取り組んだ。

## 成果

- 手に取りたくなる配架と目標の設定  
年間目標の設定と月ごとに増加する貸出冊数の掲示と手に取りたくなる本の配架により、児童の来室が増え、昨年度以上の貸出し冊数となった。

### ○全校貸出冊数(4月～1月末)

2020年度 15,621冊

2021年度 17,760冊

- 学校司書と協働の授業づくり  
学校図書館活用年間計画の作成により学校司書との連携がスムーズになった。また、学校司書と協働の授業づくりによって、児童が、単元の導入段階からの作者への興味を継続してもち続けることができた。



教室前廊下に設置されたブックトラック(学校司書の選書による)

### ○「読み解く力」の育成

自らが設定した課題に向けて自身の考えをもって学習に臨んでいるため、他の児童との意見交換を行ったり、教材文に戻ったりする等主体的に学ぶ姿が見られた。

- 児童アンケートより  
・授業がよくわかる

2020年度 89%

2021年度 90%

## 課題

- 学校図書館を利活用し、情報処理能力を向上させる授業研究が進んでいない。
- 学校図書館の整備や学校司書と協働した活動が進んでいない。
- 生徒の読書に対する興味関心や情報処理能力に個人差がある。

## 事業のねらい

- 学校図書館の機能を活用した授業研究を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員の授業改善を行う。
- 読書活動を推進し、生徒の情報処理能力、読み解く力の育成を図る。
- 学校司書や地域ボランティアと連携し、読書環境の整備を行う。

## 取組実施地域・学校の指定

滋賀県東近江市立湖東中学校



## 実施内容

### ①学校図書館の機能を活用した授業研究



学校図書館の機能を活用した授業実践を研究するとともに、各教科で活用をどう位置づけられるのかを考察した。

### ②学校司書との連携



授業で活用する図書の準備やビブリオバトル、ブックトーク、お試し読書等の取組を学校司書と連携を行った。

### ③生徒会活動の充実



図書委員会の活動として、先生や生徒のおすすめ本の紹介や、地域ボランティアと協力した学校図書館の整備を行った。

### ④地域との連携による読書環境の整備



地域ボランティアによる読み聞かせや大きな書架の入れ替え作業で、よりよい読書環境に協力いただいた。

## 成果

### ○教職員の学校図書館の利活用についての意識の向上

学校司書との連携により、発展的で深まりのある授業を行うことができた。また、授業研究を通して、教員の授業改善の意識が向上した。



学校図書館で足りない図書は、市内7図書館から取り寄せていただいた。

### ○生徒の図書に対する意識と情報活用能力の向上

図書委員会の意欲的な活動や図書に関する授業等で読書への興味関心が向上した。また、生徒が図書や資料の活用にも自信をもって取り組み、主体的な学びにつながった。



ビブリオバトルなどの後は、貸出冊数が飛躍的に伸びた。

### ○生徒アンケートより

	読書が好き	資料を活用できる
2020年度	71%	81%
2021年度	81%	84%

## 課題

○本県は、山林が南北に広がっており、へき地が多い。そのため、小規模校の割合は県全体の7割以上を占めている。教育上の諸問題、特に少子化に伴う教育の平等性を保つことに対応できるよう、創意工夫が必要と考えられる。

○各市町村において、学校司書の配置を促進していただいているが、まだまだ十分な配置となっているところは少なく、人材不足を訴える市町村もある。

## 事業のねらい

●学校司書と連携した学校図書館の効果的な利活用を研究することで、情報活用能力の育成を促進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る。

●県立高等学校との連携を深めることによって、県内の公立学校における学校図書館の効果的な活用を促進するとともに、各地域における学校図書館に関わる教職員等の資質・能力の向上へと繋げる。

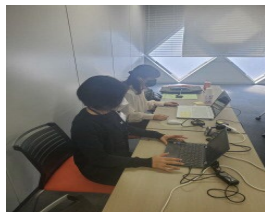
## 取組実施地域・学校の指定

日高川町 丹生地区 4校

- ・和佐小学校
- ・江川小学校
- ・山野小学校
- ・丹生中学校

## 実施内容

### ①企画運営委員会の実施 (ハイブリット・オンライン)



年2回開催し、本調査研究の概要を周知するとともにICTと図書館を活用した取組方法や、他府県の図書館を中心とした情報活用能力の促進に向けた学校の取組等を知ることにより、関係職員の意識の向上へと繋げた。

### ②学校図書館を活用した授業づくり研修会の実施



学校司書や司書教諭等を対象に県立高等学校の図書館を活用した研修会を、地方別3カ所で実施することで、学校図書館に関わる教職員の資質・能力の向上を図り、学校図書館の効果的な活用を促進した。

### ③学校図書館の活用研修会 (オンライン)



教職員が児童生徒視点で、自校の学校図書館を使った調べ学習を行った。その際の注意点等について経験することで、学校図書館の効果的な活用を検討し、活用の促進を図った。

### ④学校図書館活用計画の作成



単元、時期、学校司書のサポート内容等について、今年度の取組内容や活用する際に有用であった資料等についてまとめ、各学校へ提供することで、学校図書館の活用を活性化した。

## 成果

### ○学校図書館の取組の普及

実践的な研修となるよう、県立高等学校の図書館を活用し、県立及び市町村の学校司書・司書教諭等でパスファインダーの作成に取り組んだ。



パスファインダーの作成において、司書と教諭が連携する方法や、効果的な情報の収集の仕方等を体験することで、授業での活用を推進することができた。

### ○学校司書と連携した学校図書館活用の促進・普及



授業内での資料紹介 (オンライン)

学校司書と連携し、学校図書館を活用することで、資料の質が向上し、児童生徒の主体的な学習活動へと繋がった。また、学校司書との連携の有効性について広く普及できた。

### ○学校司書と連携及び学校図書館の活用状況 (再委託先 日高川町の状況)

	学校司書との連携状況 (学校情報センターとしての活用した割合)	学校図書館の活用状況 (読書活動は含まない) (12回以上/年)
R2	24.1%	12.8%
R3	37.7%	27.5%

## 課題

- 府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。
- 学校図書館の授業での活用が進んでいない。
- 言語能力・情報活用能力の育成が必要。

## 事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、言語能力の育成を図る。事業実施校には学校図書館活用に造詣のあるスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組を広く普及させ、府域の学校図書館の機能の充実をめざす。

## 取組実施地域・学校の指定

豊能町、吹田市、高槻市、茨木市、大東市、交野市、東大阪市、八尾市、富田林市、藤井寺市、大阪狭山市、泉大津市、和泉市、岸和田市、阪南市、熊取町  
【16市町】  
小学校13校 中学校7校

## 実施内容

### 【大阪府の取組】

- 事業実施校に担当教員を配置
- 事業実施校へスーパーバイザーを派遣
- 事業実施校への指導助言

### 【市町村の取組】

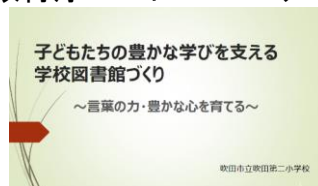
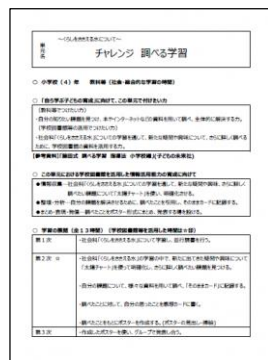
- 事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
- 事業実施校の進捗管理及び訪問支援
- 事業実施校の公開授業及び校内研修支援

### 【事業実施校の取組】

- 言語能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践
- 公開授業、校内研究の実施
- 学校図書館を活用した実践事例の作成

### 【研究成果の周知】

- フォーラム(オンデマンド形式)にて発信
- 事業実施校の取組を府教育庁HPにWEBアップ



事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ普及・発信

## 成果

### 【児童生徒アンケート】

	令和3年 5月(%)	令和4年 3月(%)
わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネットなどで調べている	73.6	85.5
本やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている	48.7	62.3
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい	63.7	74.7

【令和3年度学校図書館活用授業単元数】  
(授業モデル、令和4年3月時点)  
合計 小学校109事例 中学校51事例

- 学校図書館活用授業が普及し、教科横断的な授業や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語能力を育成する授業づくりが広がる。



参考: 学校図書館を活用した授業実践例  
(大阪府教育庁HP)  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>

## 課題

- 学校段階が進むにつれて、児童生徒の読書離れが進行している。
- 児童生徒の読書活動や学習活動の更なる充実に向けた、学校図書館の環境整備や利活用の促進。



## 事業のねらい

学校図書館が読書センターとしての機能を生かせるような取組や学校図書館の環境整備や教職員の指導体制の構築の在り方について研究し、その成果を県内の各学校に普及させることで、子どもの読書活動を推進する。



## 取組実施地域・学校の指定

- 宇陀市教育委員会
- 宇陀市立菟田野小学校  
児童数：142名  
学級数：10クラス  
教員数：18名（本務教員・職員）

## 実施内容

### ①研究指定校における取組

- ・市立図書館司書との連携
- ・地域ボランティアの活用
- ・司書教諭を中心とした校内体制の構築



市立図書館司書による  
支援：毎月ごと  
地域ボランティアによる  
支援：每学期ごと

### ②「学校図書館実践事例集」の作成

- ・本県児童生徒の読書に係る課題について
- ・学校図書館の意義について
- ・県内3市4小・中学校の実践事例について



作成部数：500部  
配布先：各市町村教育委員会  
各小・中学校

### ③奈良県子ども読書活動推進フォーラムの開催

- ・指導主事による説明
- ・研究指定校による実践発表
- ・学識経験者による指導講評及び講演

令和3年度 奈良県子ども読書活動推進フォーラム

義務教育諸学校における  
子どもの読書活動の充実  
～学校図書館の利活用の向上を目指して～

2022.2.22 (Tue.)  
奈良教育大学 横山真貴子  
(yokoyama@cc.nara-edu.ac.jp)

ZOOMによるオンライン開催  
講演等の動画を作成し、オンデマンドで視聴可

## 成果

### ○研究指定校における成果

- ・読書が好きな児童の割合の増加
- ・児童一人当たりの図書貸出冊数の増加
- ・平日に本を全く読まない児童の割合の低下

	6月	2月
1日に10分以上読書をする児童の割合 (%)	73.4	89.1

### ○学校図書館関係者への周知

- ・学校図書館関係者に対して、研究指定校の取組をもとに、学校図書館の充実の意義やその取り組み方等について周知することにより、各学校における学校図書館充実に向けた雰囲気醸成を図った。
- ・県内各学校における学校図書館充実に向けた事例を取りまとめて市町村教育委員会等へ配布することにより、学校図書館の充実に取り組む市町村教育委員会への支援とした。

	H31	R3
フォーラムは、今後の取組に生かされますか（肯定的回答の割合 %）	92.9	100.0

## 課題

○感染症や災害の発生等を乗り越えて読書活動や探究的な学びに寄与し続ける学校図書館の運営

○子どもの興味・関心等に応じ、1人1人に応じた資料を提供する学校図書館の運営



## 事業のねらい

○学校に電子書籍読み放題サービスと電子百科事典を導入し、その適切な活用方法と読書活動及び学習活動への適合を検証する。



## 学校図書館推進 協力校の指定

我孫子市立我孫子第四小学校

昭和25年発足

創立71年目

34学級 児童数883名

追加試行 我孫子第一小学校  
我孫子第三小学校  
湖北台西小学校  
新木小学校

## 実施内容

### ①読書活動での電子書籍読み放題サービスの活用

サービス名：株式会社ポプラ社提供「Yomokka！」  
利用者：小学2～6年生  
初期設定：1人1台端末持ち帰り時に、保護者により設定（学校からの文書案内）  
利用開始：令和3年9月（6月～試行利用）  
利用冊数：23,126冊（9～12月）  
追加試行：我孫子第三小学校・湖北台西小学校  
新木小学校

### ②学習活動での電子百科事典の活用

サービス名：株式会社ポプラ社提供「ポプラディアネット」  
利用者：小学3～6年生  
初期設定：不要（ID・PWの管理）  
利用開始：令和3年5月  
利用研修：教職員向け1回、出前授業（各学年）  
追加試行：我孫子第一小学校・湖北台西小学校  
新木小学校

### 市内全小中学校19校での導入に向けた予算化

### ③多様な資料を活用した「学習の個性化」を意識した授業開発・教職員研修

- ・推進協力校による授業研究
- ・推進協力校及び協力事業者（株式会社ポプラ社）による実践発表（zoom）



## 成果・課題

### ①児童の読書活動の実態把握

○電子書籍の読書冊数は、紙の本の読書冊数を上回った。  
○電子書籍の利用により、読書冊数の総数は増えた。  
△利用には個人差があり、ライセンスが個人に紐づくものであるため、学校への導入には検討が必要。

### ②学習活動での電子百科事典の利用の実態把握

○小学校3年生から6年生の全ての学年において、探究的な学習の場面での利用が見られた。  
○情報の信頼性、安全性について、著作権について、引用の仕方や出展の仕方について等、児童が使いながら身につけていく姿が見られた。  
△端末そのものの利用に慣れる必要があり、低学年の利用が難しい。



令和4年3月電子百科事典の一斉導入  
小学校「ポプラディアネット」  
中学校「ブリタニカ・スクールエディション」

### ③個別最適な学びの実現

「学習の個性化」と「学習方法の自己決定機会の増加」により個別最適な学びが実現しつつある。

## 課題

- 学校図書館に携わる教職員の学校図書館活用に対する意識の向上
- 学校図書館活用に係る指導力の向上

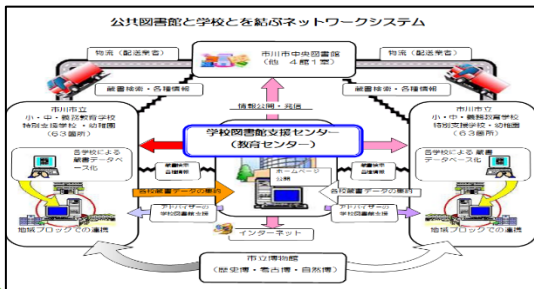
## 事業のねらい

- 推進協力校の実践を市内へ拡げることで、学校図書館活用への意識を高めるとともに教職員の指導力の向上をめざす。
- 教職経験4年目教員の研修の充実を図り、授業改善につなげる。

## 取組実施地域・学校の指定

市川市教育委員会：学校図書館支援センター  
推進協力校：市川市立曾谷小学校

- ・2006年より学校図書館支援センター事業開始
- ・公共図書館と市内すべての学校図書館が教員一人一人の授業を支える体制が整っている。
- ・市内全校に学校司書配置



## 実施内容

### ①推進協力校による学校図書館活用のモデルの構築



推進協力校では、校長先生のリーダーシップの下、学校体制で学校図書館の活用を行っている。そのため、司書教諭及び学校司書だけでなく、全教職員が学校図書館活用について考えることができる体制が整っている。

どの学年も図書資料から得た知識をもとに、はがき新聞等に自分の考えを書く活動を位置づけ、さらにグループで交流する時間を確保していた。このような授業を通して、国語科でつきたい力が身につくように工夫しており、市内の教職員の参考となった。

### ②教職経験4年目教員 「学校図書館活用研修会」

授業を行った教科  
【小学校】  
国語科、社会科、外国語  
総合的な学習の時間  
【中学校】  
国語科、社会科、理科  
音楽科、保健体育科  
技術家庭、外国語、  
道徳科、特別活動  
総合的な学習の時間

学校図書館を活用した授業を参観後、一人一人の教員が、自校にて学校図書館活用の授業を行い報告書を提出した。実際に授業を行うことで、学校図書館活用に関する意識の向上が見られ、課題も気が付くことができた。小学校は、国語科の実践が半数を占めたので、他教科・領域へ拡げていくことが今後の課題である。

### ③コロナ禍における学校図書館



一人一台学習用端末の配付に伴い、ICT機器を活用した実践が見られた。  
・オンライン作家講演会  
・学習用端末を利用した読み聞かせ(園児、児童生徒の交流)  
・大型提示装置による読み聞かせ

※市内の学校図書館を結び図書貸借システムを利用して、中学校ブロック間で読書郵便を行った学校もあった。

## 成果

### ○推進協力校実態調査より

【児童アンケート】  
1週間にどのくらい学校図書館に足を運びますか。(小学3年生)  
週3回 6%⇒8%  
週2回 17%⇒40%

小学3年生は、市内の教職員に向けて公開授業を行った学年である。授業で意図的・計画的に図書資料を活用したことで、学校図書館の利用の頻度にもよい影響があったと考えられる。教職員の授業づくりに関わる項目が向上していることから、調査研究を通して、授業改善につながった。

【教職員アンケート】  
資料がたくさんあっても要点を整理しまとめることができるようにさせている。31%⇒71%

### ○教職経験4年目教員実態調査より

学校図書館を活用する時は、学校司書と打ち合わせをしている。  
80%⇒89%

授業を参観したことにより、学校図書館活用のイメージを持つことができ、全員が自校で授業を行うことができた。授業を行う中で、日頃の授業を振り返る機会となり、授業改善につながったと考えられる。

児童生徒が図書資料から得た情報をもとに自分の考えをまとめる授業を行っている。  
69%⇒87%

教育課程全般で学校図書館を活用することで、学校図書館は活性化する。

	学校図書館活用時間数
2020年度	30,596時間
2021年度 (3月8日現在)	42,301時間

## 課題

○鎌ヶ谷市内小中学校の児童生徒の不読率（学校の授業時間以外に読書を全くしない割合）が、千葉県や全国と比べて高い。  
○新型コロナウイルス感染症の影響で、本の貸出しや学校図書館の利用が制限されている。

## 事業のねらい

学校図書館の読書センター、学習センター及び情報センターとしての機能強化による活性化と「新しい生活様式」を踏まえた学校図書館の新たなモデルを構築することにより、市内小中学校の不読率の改善を目指す。

## 取組実施地域・学校の指定

- <中心校>  
鎌ヶ谷市立南部小学校  
<連携校>  
鎌ヶ谷市立第四中学校  
鎌ヶ谷市立東部小学校  
鎌ヶ谷市立道野辺小学校



## 実施内容

### ① 国語科 × Chromebook × 大型提示装置

国語科における「本の紹介」活動は、学級の友達が紹介相手となることが多いが、ICT機器を活用して、本の紹介動画作成し、他校に向けて発信した。

【実践事例】

- ・『『お話びじゅつかん』を作ろう』（2年生）
- ・『『おすすめ図書カード』を作ろう』（3年生）
- ・『『読書発表会』をしよう～新美南吉編～』（4年生）



学校図書館司書の先生にも手伝ってもらって、動画を作成したよ。わたしのおすすめの本、他の学校に届くといいな。

### ② 小中交流図書室ライブ中継

中学校から小学校に向けて、図書室案内やおすすめの本の紹介を行った。



（小学生）  
中学校に行くのが楽しみになった。  
（中学生）  
小学校の図書室や先生がとても懐かしかった。

### ③ 親子で読書「うちどく」の実施

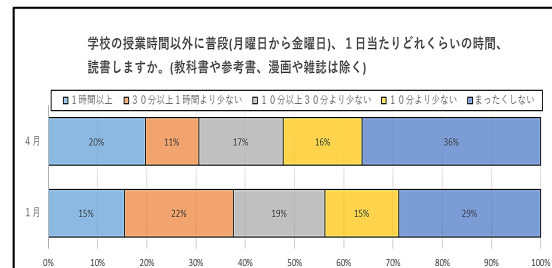
親子で同じ本を読み、感想を交流し合う



（うちどくカードをやったの感想）  
「おもしろかった。カードを渡してくれる時に、お父さんはてれくさそうだった。」

## 成果

### ○中心校の実態調査結果（4月と1月）



(冊)	4月から1月の学校図書館の貸出し数	一人当たり
令和2年度	11273	51.9
令和3年度	11882	59.1

・ICT機器を活用することで、読書活動を推進する上での時間的・空間的制約がなくなった。他校の児童生徒との本を介した交流は明確な相手意識の醸成につながり、また、相手から感想を受けとることができ、読書活動の意欲が高まった。  
・小中の交流によって、「中学校の図書館に行ってみよう」「いつかあの本を読んでみたい」と読書のきっかけや将来への期待を持つことにもつながった。  
・「うちどく」を実施することで、家庭や保護者を巻き込んだ読書活動を行うことができた。  
・貸出冊数や学校の授業時間以外に読書時間に顕著な差はみられなかった。しかし、他校と本を紹介し合い、感想を交流することで、児童の読書への興味や選書の幅が広がった。



## 現状と課題

- 学校段階が進むにつれ、読書離れが進むため、未読率の改善が必要。
- 学習したことを普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだり、するときに、活用しようとする児童生徒が少ない。
- 目的に応じて自分の考えを話したり書いたりすることが苦手な児童が多い。

## 事業のねらい

- ◎言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな想像力を育む。
- ◎学校図書館を活用した子どもの国語力・言語能力の育成。
- ◎言語力向上司書職員と連携した授業づくりの開発。

## 取組実施地域・学校の指定

河内長野市立川上小学校  
大阪府河内長野市清見台4-18-1  
1984年設立  
児童数：241名

## 実施内容

- ①情報収集・整理能力の育成
  - ・総合的な学習等での調べ学習。  
(1人1台端末と書籍の併用)
  - ・市立図書館と連携により環境を整備し、一人ひとりが課題解決に取り組む。



(補足説明)調べ学習事前指導  
国語科「伝統工芸」の調べ学習の前に、百科事典の利用指導を行う。

- ②語彙力・想像力・表現力の育成
  - ・身近に本のある環境づくり。
  - ・昼休みや図書の時間での読み聞かせ
  - ・朝読書タイム、スキルタイムで読書活動の充実



(補足説明)えほんのひろば  
様々な分野の約330冊程度の本と面展台を用意し、自由に手に取って触れることができる時間の設定。

- ③表現活動の充実(各教科等での取組み)
  - ・ビブリオバトルの実施、各種コンクール応募
  - ・新聞活用による自分の考えの形成



(補足説明)本の帯コンクール  
本の帯を作成することで、要約の力、印象に残った場面を選びだし表現する力の育成を図る。

## 成果

○情報センターとして、学校図書館を効果的に利用し、必要な情報を適切に収集・整理できる調べ学習の系統表を作成し取り組むことができた。百科事典を引いたことがなかった児童もその後見出し語、項目等を使い調べ学習に活用する児童が増加した。



(補足説明)  
百科事典や図鑑を使って、課題のプリントに挑戦。

○言語力向上に向けて、読書量向上、語彙量向上、表現力向上、調べ学習の項目を設定し、国語科の単元と結びつけ全学年系統表を作成し、取組むことで、教員のカリキュラム・マネジメントの意識が高まった。

○上記等において、言語力向上司書職員による授業支援や教職員との連携を進めることができた。

○1か月間読書冊数調査(11月1人当たり)

	冊数
2021年度	35.5冊
2022年度	53.5冊

# 「学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業

## 課題・事業のねらい

- 学校図書館を活用した授業実践  
(研究指定校3校による授業実践)

### 研究指定校

- ・ 附属世田谷小学校
- ・ 附属世田谷中学校
- ・ 附属国際中等教育学校

- 学校司書のための研修プログラムの企画・実施・効果の検証

- 『先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース』の改良と普及

- 研究成果の発表

## 実施内容

### 研究指定校による授業実践

- ① 附属世田谷小学校
  - ・ 情報活用能力の育成および GIGA スクール構想における学校図書館運営について
- ② 附属世田谷中学校
  - ・ 情報の入口としての学校図書館活用(家庭科)およびハブとしての学校図書館分析
- ③ 附属国際中等教育学校
  - ・ 中学技術科における学校図書館の課題解決を目的とした展示型ブックスタンドの製作

### 司書研修の実施(7月29日、30日)

- 「選書」「GIGA スクール構想と学校図書館」をテーマにオンラインで実施

動画配信

Web サイト『学校図書館活用データベース』による情報発信

動画配信

### ● 事業報告会の開催(12月18日)

- ・ 3校の授業実践校の報告および事業委員による講評(参加者:約150名)

## 成果・課題

### 研究指定校による授業実践

- ① 学校図書館を活用した情報活用能力の育成と GIGA スクール構想における学校図書館の改革案の提示
- ② 学校図書館を中核に、他教科、保育園、NPO とつながる横断的学びの実現
- ③ 学校図書館の課題解決を検討、精査し、高い水準で知識と技能を習得  
(課題) 学校図書館を活用した学習成果の可視化および評価の在り方

### 司書研修

- 募集定員80名に対し、応募多数による見逃し配信の実施。(申込み:250名)
- 参加者の関心に合ったテーマで実施、評価指標の全てで90%台の高評価を得られた。  
(課題) 引き続き司書だけではなく教員と参加できる内容の研修を検討する。

### Web サイト・事業報告会

- 研修等のオンライン配信によって広域な参加者の利用がうながされた。
- 年間アクセス数の増加  
2012年度→2021年度  
70,487件→262,912件  
(課題) GIGA スクール構想の中心に学校図書館が位置づけられるような情報発信。

掲載

## 課題

- 指導主事
  - ・学校図書館活用の授業作りのイメージが不足しているのではないか。従って、授業実践についての指導する力が十分とは言えない。
  - ・学校訪問をした際も、学校図書館を活用した授業実践に対する指導回数も少ない。
  - ・学校現場において、司書教諭をはじめとした教員に、学校図書館活用の授業作りのイメージが不足している。従って学校図書館を活用した授業の実践力が不十分である。



## 事業のねらい

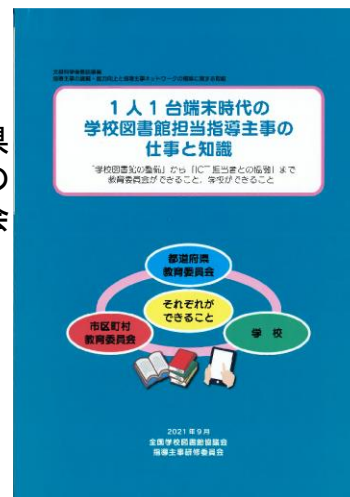
- 学校図書館教育を担当する指導主事が、学校図書館を活用した授業の具体的なイメージを持ち、指導の観点を知り、的確な指導ができるようになること。
- 学校訪問において、指導主事が学校図書館活用教育の視点でどのように指導助言をするか、より適切な指導助言ができるような、資質向上を図る。
- 指導主事自身が学校図書館活用に関して指導力を向上させ、県や市町村教育委員会として教職員への系統的・計画的な研修会を企画・実施できるようにすること。
- 地域の推進リーダーや管理職も、学校図書館活用教育のイメージを高め、授業の実践力を高め、指導主事からの指導を効果的に学校教育に反映させられるようになること。
- 県教育委員会が主体となることで、県内市町村教育委員会同士の連携をとりやすくし、人的ネットワークが構築されることで、横の繋がりが強くなり、地域としてのポトムアップを図ること。
- 学校図書館活用授業における指導主事の指導の観点をまとめ、全国の指導主事が参考となる役立つ資料を作成すること。

★2020年度、2021年度とも、青森県教育委員会とともに事業を行った。

## 実施内容

- ①『1人1台端末時代の学校図書館担当指導主事の仕事と知識～「学校図書館の整備」から「ICT担当者との協働」まで教育委員会ができること、学校ができること』

- ・青森県学校図書館  
学校図書館担当  
指導主事、都道府県  
教育委員会、全国の  
市区町村教育委員会  
に1冊ずつ配付



- ②青森県学校図書館担当指導主事研修会の開催

- ・青森県学校図書館のと現状と課題
- ・講義 1 GIGAスクール時代の学校図書館
- ・講義 2 学校経営と年間計画  
～教育課程に位置づけられた  
学校図書館活用の推進～
- ・講義 3 主体的に学ぶ探究的な学習第一歩
- ・講義 4 1人1台端末時代と学校図書館
- ・トークセッション

## 成果

- ・事前アンケートでの意識調査では、時間がない、人が足りないなど、できない理由の回答が多かった。
- ・事後のアンケートでは、計画を立てて進めていくこと、環境は不十分だができることから進めていく、実践例を見て、先ず取り組んでみるなどの前向きな回答に変わった。

★直ぐに成果が出ることではないので、今後も青森県内のみならず全国的にサポートし、推進していく必要がある。

★『学校図書館と1人1台端末はじめの一步』（全国SLA発行）の刊行。



## 課題

- ①学校図書館-市立図書館連携システム（サービス名称「ほんくる」）の周知、活用の停滞。
- ②学校図書館利用時間の減少。
- ③児童生徒と保護者、地域、また教員と司書等の連携。



## 事業のねらい

- ①「ほんくる」「学校図書館」の利用促進、活性化。
- ②児童生徒を支える「教員」「学校司書」「行政」「地域」の連携。



## 取組実施地域・学校の指定



- 取手市立全小学校 14校
- 取手市立全中学校 6校
- 取手市立図書館
  - ・取手図書館
  - ・ふじしろ図書館
  - ・戸頭公民館 図書室



## 実施内容

### ①心からみんなにすすめたい一冊の本推進事業 <校内大会>



- ・代表に選ばれた本と「おすすめカード」を一緒に展示。
- ・自校の代表本だけでなく他校の代表本も展示。
- ・他校の友達に「読んだよカード」を送付して交流。

### ②心からみんなにすすめたい一冊の本推進事業 <家族部門・うちどくフェア>

- ・「取手市うちどくりスト」63冊の中からとっておきの一冊を選び、家族と一緒におすすめカードを作成。
- ・取手市役所エントランスにて、「うちどくフェア」を開催。



### ③中学生「心からビブリオバトル大会」



- ・本年度も動画による開催。
- ・読み聞かせ団体の方から、指導助言を受ける。
- ・図書館HPで動画を公開。市民も視聴可。

### ④学校図書館紹介動画の作成

- ・各校の動画作成計画により、特設コーナー、イベント、図書委員の仕事、感染対策等について紹介。
- ・学校図書館のようすを関係者や地域と共有。



## 成果

### ～児童生徒の読書環境を支える連携～

#### ①市内小中学校間の連携

「読んだよカード」を活用して他校の児童生徒と感想を交流。さらなる読書意欲の向上へ。



#### ②行政館間の連携

市立図書館と教育委員会指導課がタイアップした「うちどくフェア」の実施。市民にも「うちどく」普及に効果。



#### ③地域との連携

地域の読み聞かせ団体によるビブリオバトル大会前の指導助言会の実施。コロナ禍における地域と生徒の交流が実現。



#### ④ほんくるの周知・活性化 (「ほんくる」を知っている・利用している) : 単位%

	小学生	中学生
事業実施前	40.1	51.5
事業実施後	65.9	96.0

## 課題

- コロナ禍での学校図書館運営
- 創立150周年事業への支援
- 外部人材を受入れる感染対策



## 事業のねらい

- 新型コロナウイルス感染防止対策以前の学校図書館の復活
  - ・3か月に及ぶ長期臨時休業を経て、各種学校行事等の自粛を鑑み、図書室応援隊も同様に自粛した。この再起動を通して、大人が毎日支援する学校図書館を再度起動させる。



## 取組実施地域・学校の指定

明治6年2月23日開校  
149周年を迎え、  
次年度150周年  
記念事業を予定  
している。



児童数293名通常11学級、特支5学級

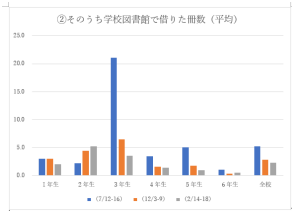
## 実施内容

### ①感染対策を整え、外部人材である図書室応援隊を再起動させる。



県教委の指導を受け、外部人材の活用が従前のように再開できるよう感染対策を強化する。

### ②読書調査を行い、学校図書館の機能を高める。



指定前の読書調査、中間、最終と、3回の調査を行う中で、学校図書館の機能を高めていく。町の図書室との連携を図る。

### ③全曜日に大人が在中し、いじめ等を防ぐ。



学習センター機能を高めるため、週2日の町雇用学校司書を派遣しているが、残りの3曜日は不在となっている。不在日をボランティアの図書室応援隊により、大人の目が届く温かい学校図書館を目指す。

### ④創立150周年事業に向けた教材の準備をする。

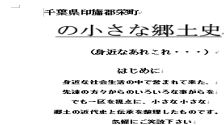


総合的な学習の時間等における調べ学習に寄与するため児童用の資料を作成していく。教員には働き方改革で、余裕がないことから教材作成を図書室応援隊が請け負う。

## 成果

### ○地域の歴史の教材化となる。

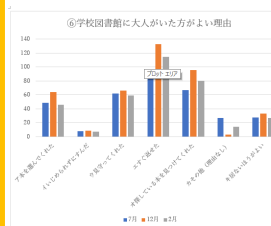
- ・図書室応援隊から地域の古老に依頼し歴史資料を取り寄せ、教材として資料準備ができた。



学区在住で、町の文化財審議会委員がまとめた「千葉県印旛郡栄町の郷土史」を教材として準備することとした。

### ○大人が居た方がよい理由。

- ・全曜日、大人が居ると、図書をすぐに返せる利点を述べて子が多い。



その他、「見守ってくれた」「探している本を見つけてくれた」「本を選んでくれた」という回答が多く、中には「いじめられずに済んだ」との回答もある。

### ○図書室に大人が居ないほうがよい。

調査日	全校人数	内6年
7/12-19	28	13
11/29-12/3	33	12
2/14-2/18	27	5

応援隊の3/8が6年保護者であったが、徐々に忌避感が薄れていった。

## 課題

- 電子図書館の利用活性化
- コロナ禍における読書啓発



## 事業のねらい

◎本紹介動画などを多数搭載して、電子図書館を読書推進ツールとして充実させ、どのような社会状況下でも図書館発の読書啓発を継続する。

◎電子図書館を生徒作品の発表プラットフォームとして提供し、電子図書館を身近に感じられるようにする。

◎探究授業に活用可能な資料を独自にデジタル書籍化し、電子図書館をオンライン授業でも有効な探究ツールとして整備する。

## 実施内容

### ①教諭や生徒による本紹介動画を搭載



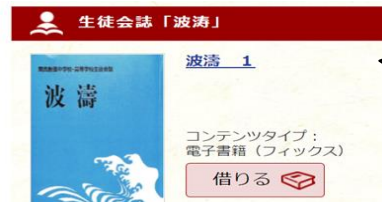
- ・教諭による本紹介動画15本
- ・生徒の本紹介動画5本
- ・ビブリオバトル指南動画3本

### ②生徒のPOPを冊子化し搭載



生徒が美術の授業や委員会で作成したPOPをデジタル冊子にし、搭載。

### ③学校史「生徒会誌」30年分をデジタル書籍化し搭載



情報の授業で「生徒会誌」を活用し、探究授業を展開

## 成果

### ◎電子図書館の利用が大幅に増加

回数	ログイン	閲覧	貸出
2019年	1620	1825	873
2021年	5715	7843	2494

\* 2020年度はコロナ禍のため通常以外の利用が多かったため2019年度と比較

動画を通し読書推進、特にビブリオバトルを契機とした日常的な読書の機運が高まった。  
\* ビブリオバトルの大会に参加し準優勝・優勝と生徒が活躍。

POPなどの生徒作品をデジタル図書館で紹介することで生徒のログイン数が増加。電子図書館の新たな活用法として教員にもアピールできた。

電子図書館に搭載した独自資料が探究授業の資料となり、オンライン授業においても図書館利用が活発化した。

# 「学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業 令和3年度事業 (学校法人 清教学園)

## 課題

取組実施校では図書館を活用する中高生の論文指導などを長く実践。中等教育における学校図書館活用事例としては、ある程度の到達点を迎えていた。

しかし一方で、校内他教科等における図書館活用は成功例が少ない。わけても、生徒の主体的な研究活動を柱とし、探究学習として位置付けられる高等部の授業実践「Global Studies」に対しては、幾度かの授業支援も実らず、生徒・担当教員ともに図書館活用実績が少ない。学習環境の整った学校図書館が校内にありながらも、なぜ「探究」を銘打った授業で図書館が活用されないのか。生徒・教員それぞれの面から調査・分析し、利用促進を図る必要がある。これにより、生徒の学びをより「主体的・対話的で深い学び」へ近づけることを目指す。

## 事業のねらい

清教学園高校2年次の探究学習「Global Studies」に対し授業支援を行う。授業実践と生徒・教員から得たデータ分析により、以下3点の効果・成果を見込んだ。

- ① 高等学校の探究型学習にて、学校図書館機能(図書資料や図書館スタッフ)が使われ辛い理由を明らかにする
- ② 上記①に対してどのような授業設計や資料支援体制が必要かを検討。検討結果を授業で実践する
- ③ 上記②の効果を検証し、学校図書館が探究型学習に対して行う効果的な資料支援体制を開発する

## 取組実施校

学校法人清教学園  
清教学園中・高等学校  
所在地:大阪府河内長野市末広町623  
事業担当者:山崎勇気  
生徒数:中学/475名(12学級) 高校/1179(29学級)  
取組実施対象:高2/401名(10学級)

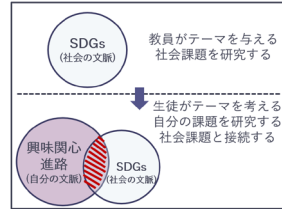
図書館名称:総合図書館 清教リブラリア  
蔵書冊数:70833冊  
スタッフ:専任職員3名/非常勤講師3名

過去実績:  
2011年 文科省「読書活動優秀実践校」学校図書館大賞  
2014年 全国学校図書館協議会第44回「学校図書館賞」大賞  
2015年 第9回高橋松之助記念「朝の読書大賞」  
2013・17年 片岡ほか『なんでも学べる学校図書館をつくる1・2』(少年写真新聞社)出版  
2018年 片岡剛夫『中高生からの論文入門』(講談社現代新書)出版  
2021年 片岡剛夫『マイテーマの見つけ方 探究学習ってどうやるの?』(ちくま新書)出版

## 実施内容

### ① 司書教諭の立場からカリキュラム改訂を提案 / 教材開発

カリキュラム改訂:テーマ設定方法の変更



10学級のうち4学級の授業を司書教諭が担当。授業担当者として直接関わることで、授業設計段階から図書館活用を提案できる体制を構築。司書教諭立場からカリキュラム改訂を提案。図書館の多様な蔵書を活かすため、教員主体のテーマ設定から、生徒の興味・関心を主体とする研究テーマ設定に変更した。さらに、図書館活用を促進する教材を開発した。

### ② 授業中の常時レファレンス体制



司書教諭が授業を担当する学級は、通常教室でなく図書館横の特別教室(総合学習室)で実施。生徒・教員共についても図書館を活用できるようにした。さらに日常の机間指導では、生徒の研究進捗を把握しつつレファレンスを行った。年間を通じ生徒の興味関心と蔵書を繋ぐことに注力。司書教諭との関わりにより、生徒が図書館機能を気兼ねなく使えるようになった。

### ③ 教科教員に対する事前・事後ヒアリング

探究学習における担当教員の「コスト意識」

	生徒に求める理想像	生徒及び指導の実態
取組みの態度	自ら主体的に学んでほしい	社会課題に興味がなく主体的に学ばない →ある程度仕方ない
時間的制約	授業外でも積極的に取り組んでほしい	部活と主要教科の学習で忙しい →課題は授業時間で済むよう授業設計
資料活用	安易なWeb利用に頼らず図書も活用してほしい	図書館機能の活用は時間がかかる →適切なWeb利用で資料活用を助きたい

協働する担当教員に事前ヒアリングを実施。教員にとっても図書館機能は扱い辛く、活用することの意義・メリットを見出せていないことがわかった。この結果から、今年度の授業カリキュラム改訂と教材開発の方策を練った。さらに年度末には事後ヒアリングを実施。授業に対する図書館の関わりが、教科教員の内にどのような実感として現れたかを調査した。

### ④ 成果物/利用統計/生徒アンケートから実践効果を検証



以下3つの観点から、取組の効果を検証した。

- ① 学習成果物から参考文献の状況を分析
- ② 図書館の利用統計から貸出冊数を分析
- ③ 生徒に対する振り返りアンケート調査

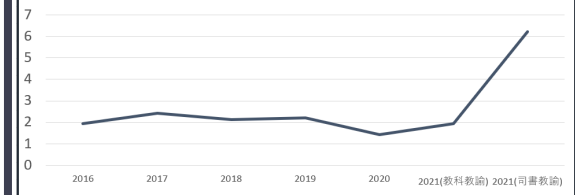
これら統計データを当該学年だけでなく、前年度までのデータ、現高1生(改訂以前の旧カリキュラムを実施)のデータ、現中3生(図書館を活用して卒論執筆)のデータと比較を行い検証した。

## 成果

- ① 一人あたりの年間貸出冊数が増加  
高2生の貸出統計を比較。司書教諭担当学級では前年より4.8冊増加した。(生徒が研究に使用した0~8類を対象に分析)

一人あたり年間貸出冊数(ノンフィクション)	2020年度	2021年度	2021年度
		教科教諭担当学級	司書教諭担当学級
	1.4	1.9	6.2

一人当たり年間貸出推移/ノンフィクション(過去6年)



- ② グループあたりの「参考図書」増加  
高2生学習成果物の「参考文献一覧」を比較。記載図書冊数が、司書教諭担当学級では前年度より5.1冊増加した。

	2020年度	2021年度	2021年度
		教科教諭担当学級	司書教諭担当学級
図書資料数	0.2	0.8	5.3
Web資料数	2.7	4.1	2.0
資料合計数	2.8	4.9	7.2

- ③ 生徒主体の研究テーマ設定であるほど、「主体的に取り組む態度」が向上した  
テーマ設定方法の異なる3学年の履修アンケート結果を比較。生徒主体の研究テーマ設定であるほど、興味関心、分野題材への理解、参考文献数、図書とWebの意識的使い分けといった「主体的に取り組む態度」の向上がみられた。

